

森林環境教育プログラム

国立曽爾青少年自然の家



○概要・目的

- ・ESD（持続可能な開発のための教育）の観点から我々の暮らしを支える森林の恵みを学ぶ。
- ・「健康で元気な森林にするには」というテーマで森林について考える。
- ・森林観察や土壌調査、間伐材の再利用を実体験することにより、森林環境の重要性を学ぶ。

○対象

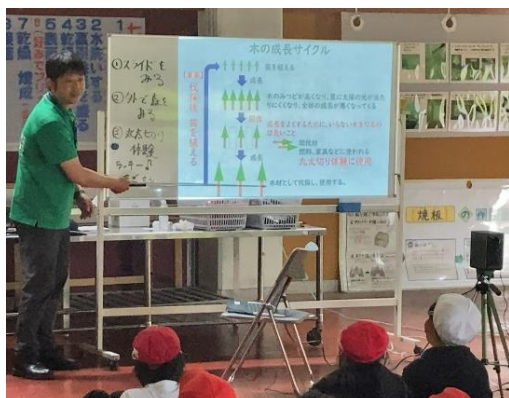
- ・小学校5年生をおもに対象とし、活動プログラム（2.5～3 時間）で実施。
- ・参加費 参加者一人100円。（指導者は除く） ※上限80名程度

○活動内容



活動項目	所要時間	活動内容
導入 (研修室)	約 5 分	☐ 職員の自己紹介 ☐ 森林環境教育プログラムの概要説明
ワーク (研修室)	約 40 分	☐ 森林のおはなし（スライドを用いて座学）
活動 (屋外フィールド、 小雨決行) ※荒天時は内容短縮	約 90 分 (約 120 分)	☐ 森林散策 ☐ 広い視点で見た森林観察（広葉樹、針葉樹） ☐ 検土杖を用いた土壌調査（土壌の色、硬さを調査） ☐ 間伐材を利用した丸太切り体験（ヒノキの間伐材を使用） （雨天時は施設内で行います。）
まとめ 活動のふりかえり (研修室)	約 15 分	☐ 全体ふりかえり ☐ ふりかえりシート記入（参加者の声を集める）

○森林のおはなし



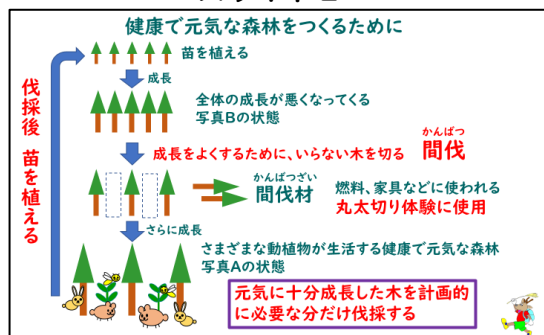
スライド 1

AとBでどんな違いがあるかな？



スライド1において、A、Bの森林の写真を見せ、何が違うのかを考えさせるワークを行う。
Aは間伐や手入れがされた森林であり、**光も十分に届き明るい。**
スギやヒノキだけでなく**地表や地表付近に自生する植物も生き生きとしている。**

スライド 2



スライド2では、模式的に木の成長と間伐との関係性を示し、間伐することで木の成長が促進され、森林全体に光が届き、**自生する植物も育ち、昆虫や動物も生きやすく、健康で元気な森林になっていくことを説明する。**次に、**元気に十分成長した木を計画的に必要な分だけ伐採し、新しい苗を植えることを説明する。**その他としては、世界の森林減少ペースの悲惨さ、手入れや管理が行き届いていない日本の人工林の状況をクイズも入れながらスライドで説明し、**小学5年生の社会科の林業にもふれ、予習や既習学習もできるものとしている。**

座学で説明した間伐の重要性に着目し、森林の樹木の密度と光がどれだけ届いているかを観察。

森林の土壌では、検土杖が土壌に刺さりやすく、やわらかく色が黒い肥沃な土壌であることを体験できる。



A photograph showing two students in blue caps and gloves working on a large log. One student is using a tool to cut the log, while the other is holding it steady. They are outdoors, and a map is visible in the background.



とくに丸太切が楽しかったぞ
切っているときは、つかみつきからなげど、切終える
と、たっせいかんがえがすべからたぞ
また、やってみたいぞ



実績：令和6年度実績 小学校 27校 1495名 ボーイスカウト 3団体 85名
満足度調査：満足 84.6% やや満足 14.8% やや不満 0.6% 不満 0%
協力：速水林業 大田賀山林 速水林業代表 FSC ジャパン副代表 速水 亨 氏